

普及活動情勢報告（平成19年12月分）

平成19年度農業改良普及推進協議会の開催



温存ハウスでの天敵
捕獲方法について説明

普及推進協議会は農家代表等に普及推進委員になってもらい普及活動の計画や実績の評価について協議をし、地域の課題解決や、農政の推進のため年2回開催している。今年度は園芸年度の始まる前に予定していたが、台風で延期となったため普及活動の現地調査をメインに12月7日に開催した。内容は、重点課題解決活動での「18トンどりナスの経営・技術の調査および地域への波及のための展示実証ほ」と「IPM 実証ハウス：土着天敵温存ハウスグループの活動」について現地で成果を見てもらった。

開催内容が展示実証ほの見学、土着天敵探し、ナス（土佐鷹）の漬け物の試食など体験的で具体的であったので解りやすく、技術が波及していない地区の委員から自分の地区でも取り組みたいとか、情報提供の要望など、前向きな意見がよせられた。

重油代高騰に向けた対策を！ ～安芸市青色申告会～



栽培担当より「それぞれのハウス環境に
応じた防寒対策を考えてみましょう！」

安芸市青色申告会では、11月に実施したナスの加温方法に関するアンケートから、変温管理 86%・固定管理 14%という結果が得られ、省エネ対策が十分していないことがうかがえた。そこで12月の講習会（12/7～12、4支部77名参加）は、通常の簿記記帳講習の他、重油高騰対策+経営悪化防止の視点から「加温ハウスの省エネ防寒対策」と題した講習も行った。タイムリーな内容だけに農家の反応も良く、講習後には早速紹介した資料の問い合わせがJA購買課に寄せられていた。

今後も経営講習会の中で栽培の話をする機会を積極的に設けて、栽培と経営を頭の中で結びつける事で、経営改善に向けた意識を育てられるような活動を行っていきたい。

野根地区ほ場整備済み農地の有効利用について



熱心に聞き入る農家

野根地区ほ場整備済み農地の有効利用について、11月28日に野根地区農業委員と関係機関が集まった意見交換会の中で稲作部会でもその話を提案して欲しいという意見があった。それを受けて、12月4日、振興センターは、JA土佐あき稲作部野根支部総会において、比較的湿田に強く販路が確立している夏作物目としてオクラと、乾田化が可能な水田での冬作にブロッコリーの説明を行った。

農家からは、どの程度の湿田状況まで栽培が可能であるかなどの質問が出て、関心の高さがうかがえた

今後は、希望者を集めて栽培についての説明会を開催し、翌年以降の生産に繋げていこうと考えている。

中芸地区野菜研究会天敵学習会

管内でも比較的 I P M の取り組みが遅れていた中芸地区では、タバココナジラム対策として土着天敵を使った安芸地区等の成功事例を見て、研究会でも関心が高まってきた。

土着天敵の取り組みを広げるために、研究会役員会や週 1 回の営農指導員との打ち合わせで「野外観察・採集勉強会」を準備し、役割分担等を細かく決め、11 月 26 日開催した。

研究会役員一人一人から各地区に強い声かけもあって当日は農家 46 名の参加があった。安芸のグループが取り組んでいる温存ハウスから、土着天敵のサンプルを取り寄せ、各種の土着天敵の実物を見せた後、スライドを使って生態や見分け方、採集方法等の研修を行った。その後、J A で準備した材料で J A が吸虫管の作成実習を行い、J A 営農指導員、事前研修済みの研究会役員と共に採集の方法や見分け方の指導を行なった。

その後奈半利町で、ゴマを使って土着天敵の一種タバコカスミカメを増殖している温存ハウスの見学を行い、研究会でゴマ種子を希望者に配布し、会員がそれぞれのハウスでゴマを使って土着天敵を増やす取り組み（ゴマプロジェクト）を実施することになった。

当日は、温存ハウスを研究会で建てようという意見が出たり、普段参加の少ない地区からも多くの参加があるなど、活気のある勉強会になった。



中芸の農家が集合し、土着天敵を確認しあった。

なす講習会・地区会の開催

11 月 26 日～12 月 5 日にかけて安芸集出荷場管内の 4 地区（北部・中央・下山・伊尾木）で、ナス生産者を対象に今シーズン 2 回目の「地区会」を開催した。近年、系統外出荷農家が増え園芸研究会行事への参加者が減少する中、農家の身近な地区で栽培講習会や現地検討会を開催することで地域のまとまりをつくろうと始めたもので、J A 営農課とともに各支所の購買担当者からの呼びかけもあり、約 70 名（約半数の系統外出荷農家も含む）が参加した。

今回のテーマは『厳寒期の温度管理、肥培管理』等で、「重油をあまり使わないですむ温度管理」や「冬場の硝酸態窒素の施用効果」など、スライドや圃場でナスを見ながら様々な質問や意見が飛び交う活発な会となった。

「地区会」は年 4 回程度を定期的で開催する予定で、農家の栽培管理技術の向上に加え、園芸研究会活動の活性化など産地のまとまりに繋げていく。



地温によって肥料の効き方が違うがやき。